

小学生に対するいじめ防止のためのピア・サポートプログラムの効果の検証

—中学校移行への継続的な支援を目指して—

高橋智子（筑波大学大学院人間総合科学研究科 大学院生）

【研究の背景と目的】

近年、学校現場におけるいじめや暴力行為、不登校は、生徒指導上の喫緊の課題となっている。特に小学校では問題の増加が顕著である。本研究は増加の一途を辿るいじめ問題に対して「予防」の観点から小学校5、6年生を中心に小・中一貫のピア・サポートプログラムを実施し、学校における心理教育プログラム実践の効果を明らかにすることである。

【研究 I】

目的：小学5、6年生を対象としたピア・サポート実践の介入前後を比較し、その効果について検証する。

方法：関東地方の公立小1校に在籍する5、6年生156名（男子71名、女子82名、不明3名、5年生79名、6年生77名）。実践前に、アセスメント実施した上で、プログラムの選定を行った。

結果：介入は、2019年6月中旬～2020年2月中旬の間に全7回実施した（Table1）。事前調査のデータから、学年と性別の2要因の分散分析を行った。その結果、学年差はいずれにおいても有意差はみられなかった。

続いて、サポートの提供について低群と高群の2群に分け、実践時期、群の2要因の分散を行った。その結果、いずれの下位尺度においても群の主効果が有意であった。サポートの受容では、時期と群の交互作用が有意傾向で（ $F(1,141)=6.70$, $P<.05$ ）、群の主効果が有意であった（ $F(1,141)=75.27$, $P<.001$ ）。情緒的サポートでは、時期と群の交互作用（ $F(1,148)=5.27$, $P<.001$ ）と、群の主効果（ $F(1,148)=174.25$, $P<.001$ ）が有意であった。情緒的サポートでは、時期と群の交互作用（ $F(1,148)=5.27$, $P<.001$ ）と、群の主効果（ $F(1,148)=174.25$, $P<.001$ ）が有意であった。道具・情報的サポートでも、時期と群の交互作用が有意傾向で（ $F(1,152)=20.51$, $P<.001$ ）、群の主効果が有意であった（ $F(1,152)=129.50$, $P<.001$ ）。この結果から、サポートの提供の低群においては介入前よりも介入後の方が、サポートの受容、提供の両方において増加していることが明らかとなった。

【研究 II】

目的：教師（担任）が、ピア・サポート実践の効果についてどのように感じているや、本実践の課題をどのように捉えているかを明らかにする。

方法：研究 I で対象とした学級の担当教師5名（男性3名、女性2名）。中学生との合同または学級でのピア・サポート実践の効果や先生方自身の関心について選択型式と自由記述型式で実施。

結果：介入後の児童の変化については、他者への態度やかかわり方の姿勢に関する変化と児童の言葉がけやかかわり方などの行動に関する変化の記述の2つに分類することができた。実施の困難な点や課題については、内容は理解できていても行動にうつせない児童に関する事、児童の特性によって活動参加が難しいときの支援に関する事、活動の教育課程上の位置づけに関する事の3点が挙げられた。

【本研究の成果と意義】

本研究の成果として、児童、担任の評価からいじめをはじめとする関係性の問題を解決する上で重要となる、人との関わるときの姿勢や態度、サポートなどの行動面で一定の変化が確認された。このことから、プログラムの一定の効果がみられたことが示唆される。本研究の意義は、これまでの中学校での実践研究から得られた知見を活かし、子どもの発達を考慮した上で、より早期から介入するためのプログラムを作成し実践したことである。

今後も、対象となった児童の変化を縦断的に調査していくことで、中学入学後のいじめや中1ギャップの予防により効果的なプログラムの作成が可能になると考えられる。

Table1 プログラム実施の概要（学級を対象として実施したもののみ記載）

実践回数	日時	活動主な目的（一部抜粋）	活動内容
第1回目	2019年6月17・19日 1学級45分 5年生（3学級） 6年生（3学級）	・ピア・サポート活動について知り、活動への興味・関心を高める ・話し合い活動を通して意見の伝え方、聴き方のスキルを身に付ける。	・ひたすらじゃんけん ・あいこじゃんけん ・ピア・サポート活動について知る ・話の聴き方の学習 ・全体でのシェアリングと振り返り
第3回目	2019年9月24・27日 1学級45分 5年生（3学級） 6年生（3学級）	・互いに励まし合ったり、高め合うためにどのような気持ちでかわり、どのように行動することが大切かを、具体的に考える。 ・話し合い活動を通して意見の伝え方、聴き方のスキルを身に付ける。	・ほほえみワーク ・2人で紙を揃えてみよう ・ピア・サポートについて考える ・ほめほめシャワー ・全体でのシェアリングと振り返り
第4回目	2019年11月20・25日 1学級45分 5年生（3学級） 6年生（3学級）	・自分のよいところを考え、自分のよいところ目をつける ・他者がよいと思っていることを肯定的に受け止め、さらにポジティブな言葉がけをすることによって、互いに自己肯定感を高め合える関係を構築する（寛容） ・話し合い活動を通して意見の伝え方、聴き方のスキルを身に付ける。	・相談じゃんけん列車 ・自分のよいところがし ・聴くこと、伝えることのトレーニング ・振り返り
第6回目	2020年2月12・14日 1学級45分 5年生（3学級） 6年生（3学級）	・小学校から中学校に進学する際の、新7年生の中1ギャップの解消のため、異年齢集団の交流、仲間作りの活動を実施する。 ・相互交流を通して児童・生徒が居場所を実感でき、互いの絆を深める。 ・話し合い活動を通して意見の伝え方、聴き方のスキルを身に付ける。	・たけのこトーク ・合わせて手をたたこう ・ストロークについて知る ・全体でのシェアリングと振り返り